

どぶろくづくり、ものづくりによる地域づくり

どぶろく工房 ちょびつと
企業組合内子ツーリズム 代表理事 山本 忠志 (内子町)



内子町は、松山から約40km南に位置し、町の中央部を一級河川・肱川の支流小田川が流れ、旧内子町市街地は、江戸後期から明治・大正と木蠟で栄えた往時を偲ばせる歴史的な町並みが保存されています。

現在では年間100万人を超える観光客が訪れ、県内有数の観光地となっています。

昭和57年、四国で初めて、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された「八日市護国の町並」に代表される歴史文化を活かした「町並み観光」、山村の景観や農村文化を活かした「村並み観光」、小田深山の自然を活かした「山並み観光」、そして地産地消を中心とした農林産物を媒介とする「交流農業」など、独自の資源や条件を掘り起こし、それらを組み合わせた「内子ツーリズム」として、積極的なPR活動を展開して来ました。

しかし、愛媛県最大の観光地である道光地である道後温泉に内子町が近いという地理的要因もあって、団体通過型観光又は日帰り観光からの脱却が図れず、宿泊観光客数が伸び悩んでいるのが現状です。

こういった



ちょびつとイベント

中、うちこグリーンツーリズム協会メンバーの有志が集り、始めたのが「どぶろく特区」によるどぶろく造りです。田舎での「のんびり体験」をして頂く中、地域の素朴なお酒を味わって田舎を満喫して頂けたらいいね！が、どぶろくを始めるきっかけでした。

内子のどぶろくは、甘口とんと・中辛といった「ぶり」と飲まれるお客様の好みに対応して2種類を生産しています。どぶろくの性質上（発酵を止めていない本当の生酒）本来広範囲での販売にはかなりのリスクを伴うお酒ですが、内子のどぶろくは製造当初から広く販売エリアを増やすのではなく、内子に来て頂いたお客様へのおもてなしのお酒としての位置づけを考えてきました。

現在、県内のどぶろく特区での製造は4地域、宇和島市津島町「なつそ」、鬼北町「きほく」、東温市「ながい」、由紀「娘」、さざれ河、喜多郡内子町のどぶろく。

これらは地域優先のブランドとして、地域の味



どぶろく

内子グリーンツーリズム



を確立していくものだと考えています。

しかし、ここで大切なことは地域だけで完結するのではなく四国内、愛媛の「もてなし」の一つとして4地域が連携を図り、発信して行く重要性です。愛媛に来ていろいろな地域で美味しい「どぶろく」を呑むことが出来る。「愛媛の「もてなし」の位置づけです。四国は3橋で本州と結ばれてはいるものの、地域の活性に繋がるほど人は訪れてはいるのが現状です。人がいなければ、物が動かない消費もされないのは当たり前なこと、いかに誘客を図るかが問題でそのためには連携の必要性があり、それを実行しなければならぬと考えています。

◆人が町に暮らせる環境づくり

内子町は、平成17年に旧内子町・小田町・五十崎町の3町が合併し、町の総面積は約300km²と町としての面積はかなり広くなりました。しかし、中山間地域であり、山林等が大半を占めているのが

現状で、合併当初約2万1千の人口であったのが、新町を結成し10年が過ぎ、今では1万8千を切ってしまった。この数字からみても若者が残れる環境がつかられていないのが伺えるわけですが、これは行政が悪いわけでも世の中が悪いわけでもなく、地域に住む人の意識の問題だと私は考えています。私自身2人の子供がいて、出来ればこの子供たちが地元に残ってくれたらいいのと常々思っています。

そのためにも若者が残れる環境づくり、より多くの人に来て貰える魅力ある街づくり、これは町民、皆が意識を持たないといけない訳で、今まで、この町で商売して来たが、後継者もいないから、若い連中が頑張つてや！”などと言う方がいますが、今まで町で商売できたこと、すなわち「地域に生かされてきた」だから、町がよくなるために協力しよう！この様にみんなが考えて頂ければ町は変わるのにな。

こんな思いで、町の様々



内子観光の拠点：うちこ手仕事職人の家

な分野の伝統工芸を確立し、より素晴らしい内子を知って頂くため、有志が立ち上がり結成したのが「内子手しごと会」です。着地型観光メニューの新たな取り組みとして、グリーンツーリズムとのコラボ・伝統工芸紹介・地域ブランド品の確立など、内子町を訪れる観光客の方々に、内子ならではの「楽しみや魅力」を提供し、古都「うちこ」の、観光リピーター、内子ファン、内子応援団を増やし、町おこし・地域の活性化に繋げて行きたいと活動しています。昨年4月より町並み伝建地区に内子町の指定管理を受けて店舗を開設、工芸品・内子の土産品・地酒などのPR・販売など着地型観光の受け皿作りを積極的に行なっています。また、現在は指定管理の意識改革を踏まえ、法人化を図り事業所として運営できる体制を整えました。今後、内子町の「広告塔」として期待できる企業となるでしょう。

町をよくする為の、いろいろなアイデアを持った人達が沢山いると思います。だけど、誰かがやるだろうではなく、「気がついた者」がやらないと何も始まりません。ということが地域づくりの基本的な考えだと考えています。